



かみくらさわせんがまち

きくかわし

### 上倉沢千框保存会（静岡県菊川市）

- 本地域は菊川市の北部、牧之原台地の西斜面に位置し、上倉沢千框保存会は平成19年に設立され、令和4年に「つなぐ棚田遺産」に認定された千框棚田では、農家とNPO法人が中心となって、保全活動に取り組んでいる。
- 保全活動には複数の企業が参画するとともに、小学校等と連携した農業体験や大学の研究室と提携し、研究フィールドとして棚田を開放している。
- 春には、地域住民と共同であぜ道アートを開催するなど地域の活性化に寄与している。

### 【地区概要】

#### 上倉沢千框保存会(H19(2007)設立)

- ・認定農用地面積39.3ha  
(田3.1ha、畑36.2ha)
  - ・資源量 水路1.5km  
農道5.7km
  - ・主な構成員 農業者、NPO法人等
  - ・交付金 約1.9百万円
- 〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

### 活動開始前の状況や課題

- 田んぼが階段状に連なり、面積10.1ヘクタール、最盛期にはその数3,000枚以上、毎年5百俵余の米が生産されていた。
- 後継者不足、生産効率の悪さなどの悪条件が重なり、9割近くが葦原と化していた。
- そこで、“子供のころ遊んだ美しい棚田をもう一度甦らせたい、子供たちに棚田の風景を見せたい”という思いから活動を開始。



1965年頃の棚田の風景

### 取組内容

- 県の行う「一社一村しずおか運動」により、県内の多くの企業と、保全活動への参加や新入社員研修の実施など様々な形で連携している。
- 「棚田オーナー事業」を実施し、都市住民に体験型農業を提供するとともに、地域の小学校等と連携し、農業体験や生き物教室を実施している。



企業の新人研修



企業の協力による復田



棚田オーナー事業

### 取組の効果

- 耕作放棄地化してしまった水田の復活、一部を畑としてソバや菜の花を栽培し再利用に取り組んでいる。
- 静岡大学、東京農業大学や多くの棚田オーナーの皆さん、多くの企業の方の協力により棚田が保全されている。
- 地域住民と共同で開催する「あぜ道アート」には多くの方が見学に訪れ地域の活性化につながっている。



現在の棚田



あぜ道アート